

# 夫は妻の育児感情をどう認識しているか（第3報）

— 妻のゆとりと育児感情 —

猪野郁子\*・久野美和子\*\*・松本律子\*\*\*

Ikuko INO, Miwako KUNO, Ritsuko MATSUMOTO

A Study of Feelings and Attitudes of a Married Couple in  
Childcare (Part 3) : Effect of Comfortable Life of Mothers

[KEY WORD : 育児・育児感情・育児の悩み・ゆとり]

## 1 はじめに

現在の少子化傾向は、子どもの養育場面にさまざまな問題を投げかけている。その一つが、母親達の育児による不安や負担感が具体的な育児に及ぼす影響であろう。

育児は女性（母親）のみが行うものではなく、母親と父親が共同して行うものであるという認識が浸透し、「母性」も女性に生まれつき備わったものではなく、育てられるものとの認識もなされつつある<sup>1)</sup>が、それでも男性のみならず女性にも「母性崇拜意識」は根強く残っている。それ故、母親になった女性は、わが子をうまく育てねばならないという強迫観念に捕らわれ、ますます育児不安や悩みを大きくしている。さらに、家族構成員の減少と地域を含めた社会の人間関係の希薄化は、こうした母親達に援助の手を差し伸べるよりも「よい子」に育てるようにと追いつめている。

母親達が持つ育児不安や育児負担感について、月齢によってどの様に異なるのか、どの様な支援があれば育児不安は小さくなるのか等研究がなされている<sup>2,3,4)</sup>。また、国はエンジェルプランを策定し、仕事を持っているとかいないとかに関わらず育児を行っている母親たちへの育児支援の方法を打ち出している。

猪野は、育児において夫（父親）の役割を明らかにすることを目的に、妻のこれら育児にまつわる負の感情を夫がどう認識しているか、負の感情の妻と夫の認識の違いおよび夫の受けとめ方について明らかにしてきた<sup>5)</sup>。また、妻の育児の負の感情と育児の悩みとがどのような関係にあるか考察してきた<sup>6)</sup>。そこでは、夫は妻の育児による疲労をよく認識していたが、不安や負担感についての認識は低く妻との間にずれがみられたこと。また、妻のこれらの感情を夫達は「気が向けば相談に乗ったり、一緒に考える」方向で受け止めたとしているのに対して、妻は夫にこれらの感情を訴えたときに夫は「不機嫌になっ

た」と認識していたこと。夫に自分の感情を理解してもらっていないと認識している妻の育児疲労感や負担感が強いこと。育児の悩みの強い妻は育児の負の感情も強いこと等が明らかになった。

今回は、妻の心（精神）と時間のゆとりが育児に関係するのではないかと仮定し、妻の生活のゆとりとの関わりから妻の育児感情を明らかにすることを目的とした。

## 2 対象及び調査方法

対象は、県庁所在地（松江市）の公立2保育所、隣接する2町（鹿島町、八束町）に存在する2保育所の計4保育所に在籍する幼児の両親320組である。調査用紙が父親母親がペアで回収されるよう、妻（母親）用と夫（父親）用を組にして封筒に入れ回答後その封筒で回収を行った。回収されたのは218組、回収率68.1%であった。

質問紙調査を実施した。質問項目は、従来の研究を参考にして策定した。家族構成、妻の育児感情や悩みの程度を4段階で問うもの11項目、妻の時間と心のゆとりを問う6項目、育児の感情や悩みを訴えたときに夫が取った態度を問う1項目、夫の育児や家事参加を問う2項目、妻と夫の信頼関係を問う8項目、妻と夫のコミュニケーションを問う11項目からなっている。夫には、家族構成を除いた項目について、妻はどうなのかを求めた。今回は、妻の心（精神）と時間のゆとりが育児感情や悩みとどう関わっているかについて考察を行う。調査は、1994年8月に行われた。

## 3 結果と考察

### a 対象者の概要

表1に示されるように、年齢は妻の約7割が34歳以下夫の約6割が35歳以上である。妻の9割がなんらかの仕事についている。常勤者は4割弱であり、パートや自営

表1 対象者の概要

妻の年齢			夫の年齢			妻の就職の有無		家族構成		子どもの数		
~29	30~34	35~	~29	30~34	35~	有	無	核家族	拡大家族	1	2	3~
49	102	67	21	66	131	191	28	89	129	42	102	74
(22)	(47)	(31)	(10)	(30)	(60)	(88)	(12)	(41)	(59)	(19)	(47)	(34)

が5割近くである。町の保育所は、その町村唯一の幼児教育機関でもあるため無職の母親も存在する。家族構成は拡大家族(複合家族)が約6割である。特に町村の保育所に拡大家族は多くみられる。子どもの数は2人が約半数、3人以上が35%である。

#### b 妻の育児感情

育児感情や悩みを聞く11項目について、「よくある」4点から「全くない」1点までの4段階4点法で採点した。

これら11項目がいくつかの因子に分解できるか因子分析を行ったところ、表2に見られるように、不安に入る項目が4、負担に入る項目が4、悩みが3項目の3因子に分解するときが最適解になることが判明した。各項目と因子各々の妻と夫の平均点と標準偏差を算出したところ、表3の結果が得られた。妻夫間と各因子間の差の検定を行ったところ、不安の項目全てで夫の得点は妻のそれより有意に低いこと、それに比べ負担や悩みの項目では、夫の得点の方が高いが、中でも「育児に一生懸命なのに夫は分かってくれない」「自分一人で子育てしているという圧迫感」「寝つきが悪くて悩む」「夜泣きに悩む」の4項目では有意に高くなっている。

表2 負の育児感情の因子分析

因子	項目	第1因子	第2因子	第3因子
不安	子どもへの接し方が分からなくなる	0.82	0.14	0.08
	子どもの育て方がわからない	0.71	0.13	0.19
	子どもの悪い面は自分のせいだと思う	0.54	0.19	0.03
	子どもに感情的に接してしまう	0.35	0.17	0.10
負担	自分一人で子育てしているという圧迫感	0.24	0.71	0.02
	子育てのために自分の犠牲大きいと思う	0.10	0.58	0.32
	育児に一生懸命、夫分かってくれない	0.24	0.45	-0.00
	夫や姑と育児について意見合わない	0.09	0.42	0.11
悩み	子どもの寝つきが悪く悩んでいる	0.11	0.01	0.63
	夜泣きで悩んでいる	0.05	0.12	0.59
	子どもの発育で悩んでいる	0.10	0.20	0.24

これらのことは当然ながら因子の平均得点に影響し、不安得点の中でも妻の得点が最も高いこと、悩みでは妻が認識している以上に夫は妻が悩んでいると考えていることが判明した。これらの結果は、従来の研究の結果と一致している<sup>7)</sup>。

#### c 妻のゆとり

妻たちの精神的時間的ゆとりを見る項目として、平日と休日の自分の時間の確保、気分転換が上手か、趣味を持っているか、友達が多いか、子ども好きかの6項目をあげた。これらについて、「はい(ある)」「いいえ(ない)」の二者択一で選択を求めた。

その結果を夫から見た結果との交差で表したものが図1である。

60~75%で妻の実感と夫の妻の状況への認識とは一致している。平日休日とも自分の時間は持てないということで妻と夫は4割一致しており、友達が多い・子ども好きでは5~6割が肯定で一致している。気分転換が上手と趣味を持っているでは、妻と夫が肯定で一致する割合と否定で一致する割合がほぼ同じである。

こうしたゆとりは、家族構成や子どもの数および就業形態によって違いがみられるが見たが、拡大家族に子ども好きな妻が有意に多い以外は差異はみられない(表略)。

次に、夫の育児・家事参加に対する妻の満足不満足とゆとりとの関係を見たところ、表4に示すように、気分転換が上手、趣味を持つ、友達の多い妻は夫の育児参加に満足している。また、休日に自分の時間が持たず、気分転換が下手で趣味を持っていない妻は、夫の家事参加に不満を示している。

子育て中の妻の様子を夫がよく認識しているといえる。また、家族構成・子どもの数および就業形態で妻のゆとりに明確な差違がみ

表3 育児感情得点

因子	項目	妻	夫	妻夫間
		$\bar{X} \pm sd$	$\bar{X} \pm sd$	t
不安	子どもに感情的に接してしまう	3.22±0.71	2.92±0.73	***
	子どもの悪い面は自分のせいだと思う	2.72±0.75	2.03±0.74	***
	子どもの育て方がわからない	2.56±0.73	2.21±0.72	***
	子どもへの接し方が分らなくなる	2.39±0.78	1.89±0.76	***
	平均	2.72±0.78	2.27±0.82	***
負担	夫や姑と育児について意見合わない	2.30±0.93	2.22±0.93	
	子育てのために自分の犠牲大きいと思う	2.30±0.88	2.35±0.91	
	育児に一生懸命、夫分かってくれない	2.27±0.90	2.51±0.87	***
	自分一人で子育てしているという圧迫感	2.05±0.85	2.20±0.85	*
	平均	2.25±0.87	2.32±0.88	
悩み	子どもの寝つきが悪く悩んでいる	1.57±0.81	1.72±0.90	*
	子どもの発育で悩んでいる	1.51±0.73	1.57±0.75	
	夜泣きで悩んでいる	1.18±0.47	1.33±0.62	**
	平均	1.43±0.69	1.54±0.77	

\* P<0.05    \*\* P<0.01    \*\*\* P<0.001

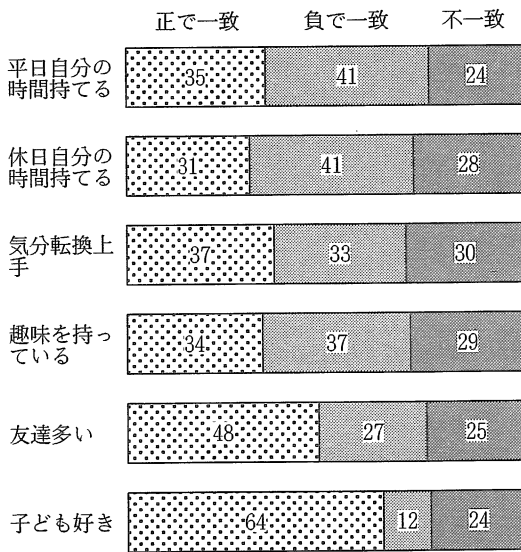


図1 妻のゆとりに対する妻と夫の認識の一致

注：正で一致は、妻と夫が肯定意見で一致を示す。  
 負で一致は、妻と夫が否定意見で一致を示す。  
 不一致は、妻と夫の意見が合わなかったことを示す。

られないことは、「ゆとり」は家事や育児の手が多いとか時間に縛られることが少ないとかが関係するのではなく、個々の妻の性格や生き方に関係するというであろう。

しかし、夫の育児・家事参加への妻の満足度が、妻のゆとりの有無と関係していることは、大変興味深い結果である。ゆとりがあるから夫の育児・家事参加に満足できるのか、それとも、夫の育児・家事参加に満足していることがゆとりを生むのかいづれであろうか。

d ゆとりと育児感情

それでは、これらゆとりが育児感情とどう関係しているか、ゆとりのある妻とない妻の間でのt検定を行った。結果は表5である。時間のゆとりがある妻は、負担を表す項目で有意に低い得点を示している。気分転換の上手な妻は不安感情の3項目と負担感情の2項目で有意に低い得点を示している。趣味を持っている妻は「育児一生懸命なのに夫分かってくれない」で、友達が多い妻は「夫や姑と育児の意見合わない」「寝つきで悩む」の2項目で有意に低い得点を示している。

子ども好きな妻は、不安の2項目と悩みの2項目で有

表4 夫の育児・家事参加に対する妻の満足不満足別妻のゆとり有無

人数(%)

	平日自分の時間		休日自分の時間		気分転換		趣味		友達多い		子ども好き		
	あり	なし	あり	なし	上手	下手	あり	なし	はい	いいえ	はい	いいえ	
育 児	満 足	85(77)	68(63)	63(76)	89(66)	90(78)	63(62)	87(80)	66(61)	97(78)	56(60)	106(69)	48(74)
	不満足	25(23)	40(37)	20(24)	45(34)	25(22)	40(39)	23(21)	42(39)	28(22)	37(40)	48(31)	17(26)
	$\chi^2$	$\chi^2=4.49$ df=1 P<0.05				$\chi^2=7.58$ df=1 P<0.01		$\chi^2=8.41$ df=1 P<0.005		$\chi^2=7.70$ df=1 P<0.01			
家 事	満 足	50(45)	45(42)	44(53)	50(37)	61(53)	34(33)	54(51)	39(36)	60(48)	35(38)	73(48)	22(34)
	不満足	60(55)	63(58)	39(47)	84(63)	54(47)	69(67)	54(49)	69(64)	61(51)	58(62)	80(52)	43(66)
	$\chi^2$			$\chi^2=5.11$ df=1 P<0.05		$\chi^2=8.86$ df=1 P<0.005		$\chi^2=4.85$ df=1 P<0.05					

表5 ゆとりのある者となない者間のt検定結果

項 目	平 日	休 日	気分転換	趣 味	友 達	子 ども
子どもへの接し方が分らなくなる			*			
子どもの育て方がわからない			***			**
子どもの悪い面は自分のせいだと思う						
子どもに感情的に接してしまう			**			*
自分一人で子育てしているという圧迫感	*	**	***			
子育てのために自分の犠牲大きいと思う	***	***	**			
育児に一生懸命、夫分かってくれない		*		*		
夫や姑と育児について意見合わない	*	*			*	
子どもの寝つきが悪く悩んでいる	*				**	*
夜泣きで悩んでいる						*
子どもの発育で悩んでいる						*

\* P&lt;0.05 \*\* P&lt;0.01 \*\*\* P&lt;0.001 で「ある」者が「ない」者より有意に得点が低いことを示す

意に低い得点を示している。子ども好きな妻は全ての感情で低い得点(これら感情を感じる事が少ない)を示すのではないかと予想していたが4項目のみであった。

妻のゆとりのうち、時間のゆとりと気分転換・子ども好きがより関係するようである。気分転換が上手であるということは、不安や負担を感じても深く悩まずによい方向に考えを変えることが出来るということであり、時間にゆとりがあれば、おおらかに子どもに接することが出来るということつまり精神的にもゆとりがあるということであろう。

#### 4 まとめ

妻が育児中に持つ悩みや負の感情は、さまざまな要因によって左右されると考えられるが、妻の精神的時間的ゆとりとどの様に関連しているかについて、218組の夫妻のペアを対象に見たところ次のような結果が得られた。

1) 妻の育児の負担感情や悩みは夫によく理解されている。が、不安感情は有意に低く認識されている。

2) 妻の時間的精神的ゆとりについて、夫は比較的よく認識している。

3) 妻のこうしたゆとりは、家族構成・子どもの数・就業の有無に関係していない。

4) 気分転換上手・趣味を持つ・友達多い妻は、夫の育児参加に満足している。

5) 休日に自分の時間がない・気分転換が下手・趣味を持たない妻は、夫の家事参加に不満である。

6) 時間に余裕のある妻は、育児の負担を表す項目で有意に低い得点を示している。

7) 気分転換の上手な妻は、育児の不安・負担感が有意に軽い。

8) 子ども好きな妻は、不安と悩みの一部で有意に低い得点を示している。

以上である。

今回われわれは、「ゆとり」を対象者一人一人の「あるか」「ないか」という主観で捉え、それに基づいて育児感情との関わりを考察した。これら「ゆとり」は、家族構成・子ども数・就業の有無との関係はみられなかった。つまり、時間や精神的ゆとりは、家事・育児にとられる時間が少ないから「ある」とか、仕事についていないから「趣味の時間が持てる」とかということではなく、どんなに家族や子どもが多くとも、忙しい仕事についていようとも、育児に携わっている妻自身が自分を大事にする時間やものを持っていることや性格あるいは生き方が関わっているということである。そして、夫が妻のそうした生き方を肯定し認めていることが大きく関係している、つまり育児の負の感情を小さくしているということに注目したい。

ゆとりとは少し色合いが異なるが、「子ども好き」ということが育児の大きな要素ではないかと予測したのであるが、全ての感情で差異がみられなかった。二者択一の選択であるため、「嫌い」ではないけれども「好き」でもない者は全て肯定に入っていると考えられ、そのため、肯定者の幅が広がったことが影響しているものと推測される。が、子ども好きという要素よりも一人の人間としての時間的・精神的ゆとりを持っていることの方が育児のもとらすさまざまな負の感情や悩みに影響するということであろう。

育児最中の若い妻たちのなかには、夫たちの希望によってキャリアを捨て専業主婦の道を選ばざるを得ない者も多い。そうした妻たちの中に、育児に埋没してしまい自分の感情をコントロールできなくなる一歩手前で子育てと趣味を両立するグループを作り、ネットワークを広げていきいきと活動している人たちが増えている<sup>(註1)</sup>。

日本の男性の半数は、妻が家事と育児に専念することがベストであると考えており<sup>8)</sup>、それ故、夫たちは妻た

ちが育児においてさまざまな負の感情に支配されること、それについて夫たちの理解が得られないことに不満を持っていること等に思い至らないからである。

夫とよい関係が結べている妻は、安定して子どもに関わることができる<sup>9)</sup>と報告されている<sup>9)</sup>ことから、この妻と夫のギャップを埋めることが一つの課題になると思われる。

相互の理解を進め、安定した心理状態で育児を進めるための妻と夫のあり方について考察を進め、高等学校段階での保育授業のあり方を検討していくことを今後の課題としたい。

最後に、調査にご協力下さいました皆さまおよび調査の労をおとり下さいました保育所職員の皆さまに謝意を表します。

## 文 献

- 1) 大日向雅美：母性の研究，川島書店，1988
- 2) 松浦賢長他：10カ月児を持つ母親の育児上の心配事とその対応，母性衛生，30，56-61,1989
- 3) 本村汎他：育児不安の社会学的考察，大阪市立大学生活科学部紀要，33，231-243,1985
- 4) 福島道子他：母親の育児に対する社会的支援，小児保健研究，50，602-606,1991
- 5) 猪野郁子：夫は妻の育児感情をどう認識しているか（第1報）（第2報），日本家政学会誌，45，999-1010,1994
- 6) 猪野郁子：母親の育児の悩みと育児感情との関係，小児保健研究，54，473-477,1995
- 7) 猪野郁子：前掲5)
- 8) 夫婦の生活意識に関する調査，生命保険文化センター，10-13,1995
- 9) 吉村理穂：母親としての自己評価，発達，63，53-55,1995

## （注1）

従来から育児中の母親のグループは多くみられるが、このグループは単に「子育て」についての情報交換でなく、育児をしながら趣味も勉強も共に楽しもうとしている。中にはビジネスに発展しているグループもみられる。その代表がB. B. B（ベイブリッジ・ベイビーズ）である。現在、全国ネットワーク。